

令和2年国勢調査の結果について

【資料2－2】

※図表等の出典について

P3,4,5,6,10：総務省「令和2年国勢調査 人口等基本集計結果の要約」

P7,8：茨城県「令和2年国勢調査 人口等基本集計結果概要（確定数）」

P9,11：令和2年国勢調査データより町作成

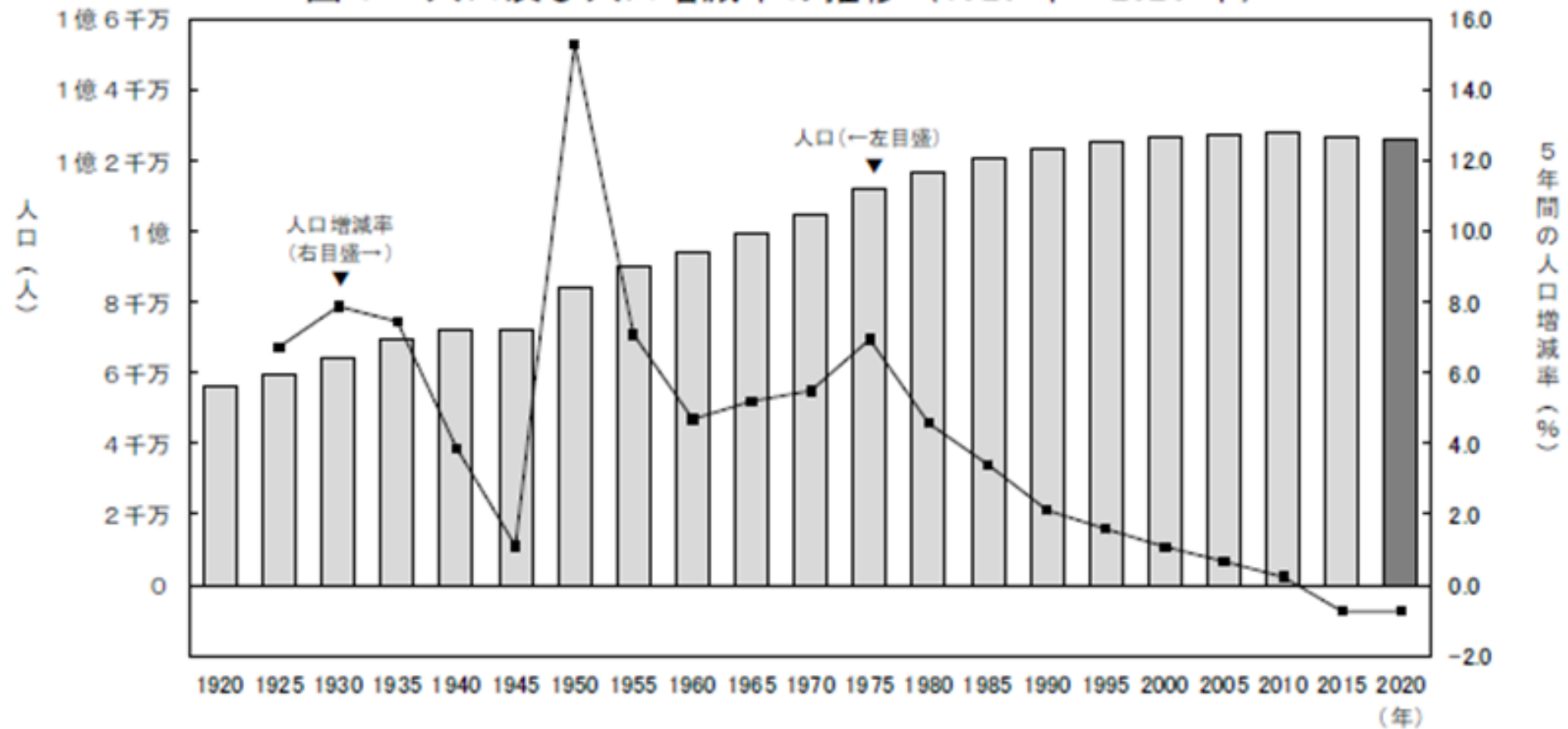
国勢調査とは

- 国勢調査は、日本に住んでいる人と世帯を把握し、各種行政施策その他の基礎資料を得ることを目的とする国の最も重要な統計調査。
- 令和2年10月1日を基準に実施。
- 5年に1度実施される調査で、今回の調査では平成27年10月1日の前回調査の結果と比較することができる。

日本の総人口は1億2614万6千人で、前回調査から94万9千人の減。日本人の人口は178万3千人の減、外国人の人口は83万5千人の増。⇒人口減少が進み、外国人で補う構造

人口推移 【国】

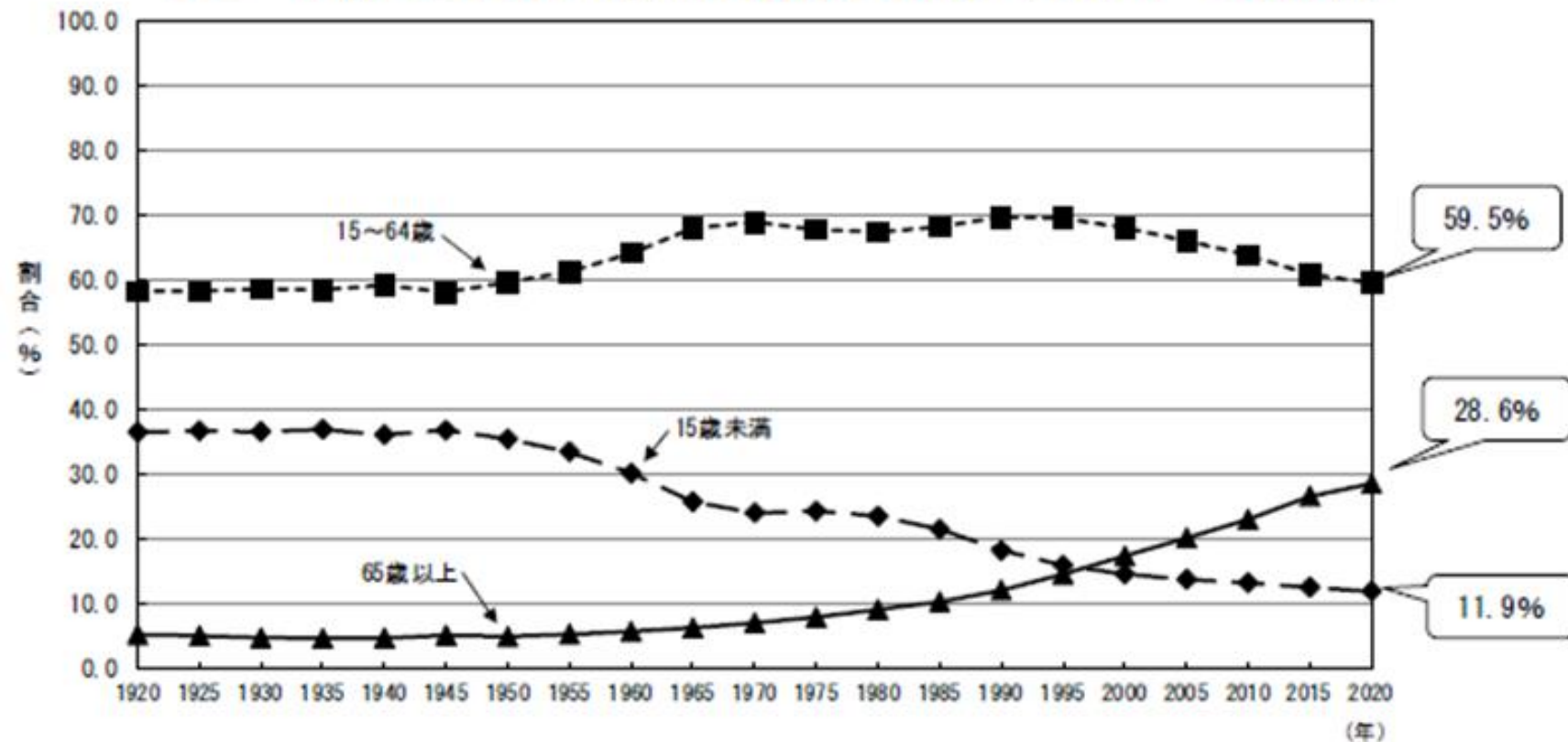
図1 人口及び人口増減率の推移（1920年～2020年）



総人口に占める65歳以上人口の割合は28.6%で、2%
の増、15歳未満人口の割合は11.9%で、0.7%の減。
⇒少子高齢化はさらに進行している。

年齢区分 【国】

図5 年齢（3区分）別人口の割合の推移（1920年～2020年）

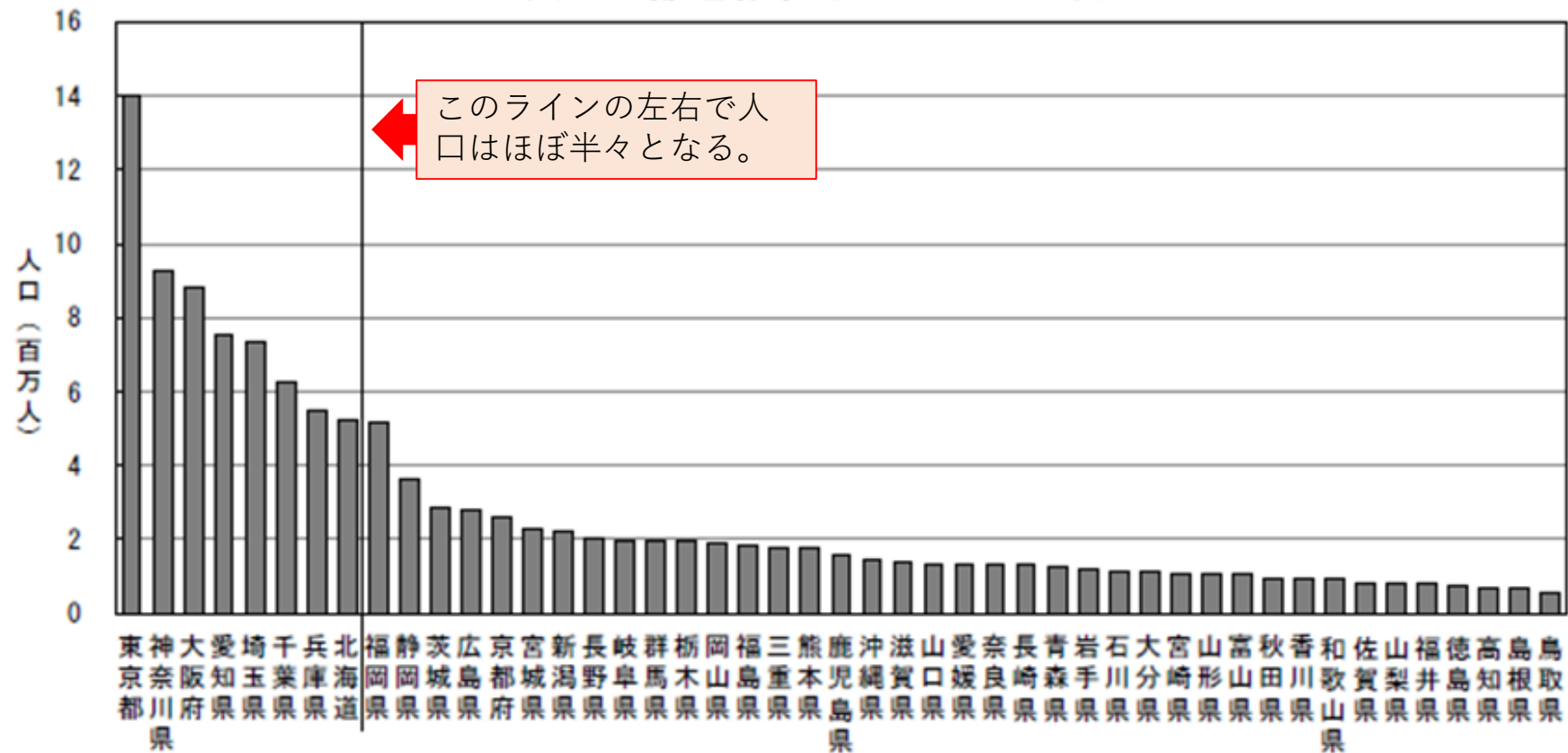


注） 2015年及び2020年は不詳補完値により算出。2010年以前は分母から不詳を除いて算出

①東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）の人口は、前回調査から78万3千人増えて3691万4千人となり、総人口の約3割を占める。

都道府県人口【国】

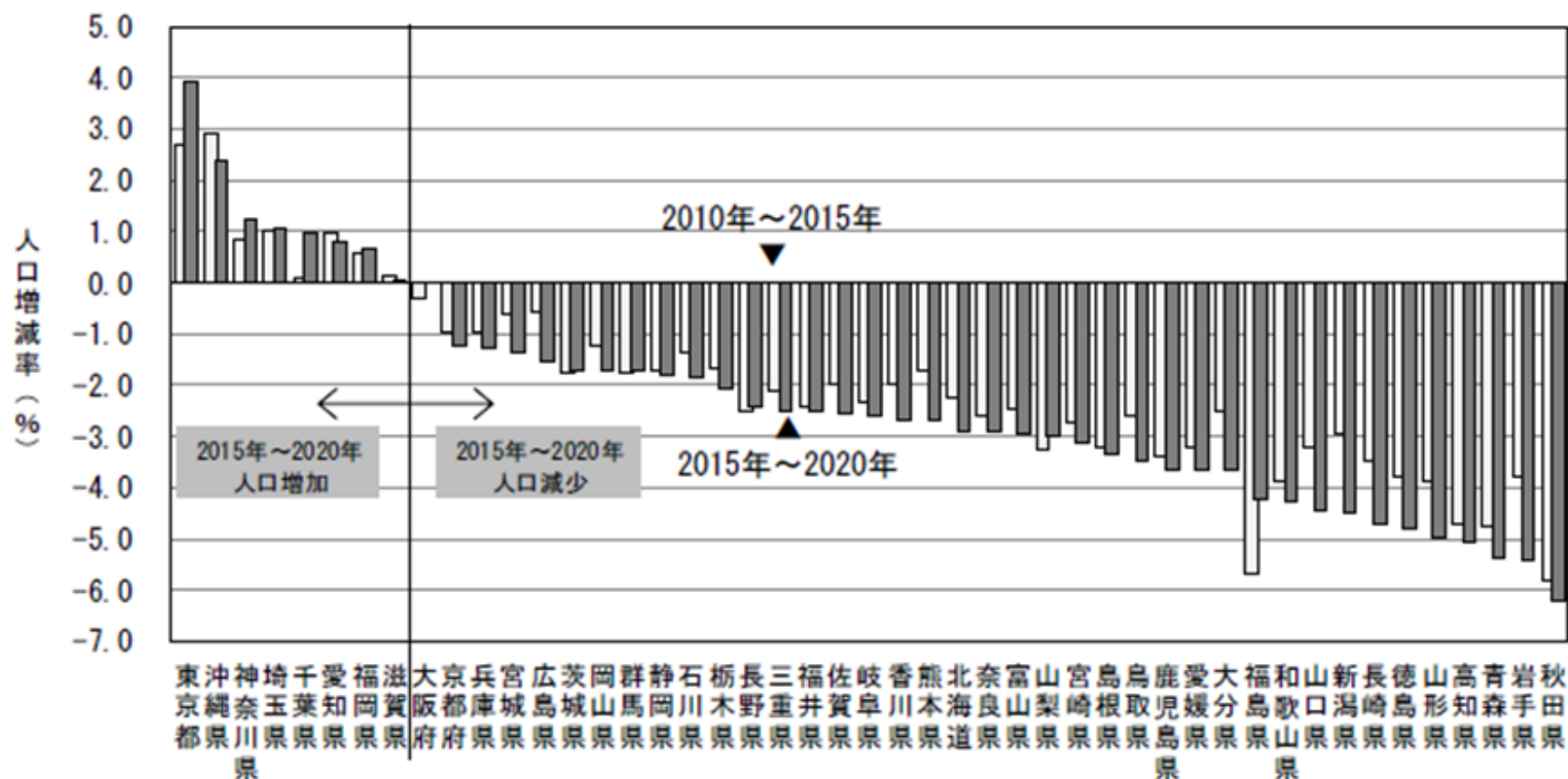
図2 都道府県別人口（2020年）



②前回調査で人口が増になった都道府県のうち、東京圏の4都県を含む5都県で増加幅が拡大した。一方、33道府県で減少幅が拡大。⇒東京圏への一極集中はさらに進行。

都道府県
増減【国】

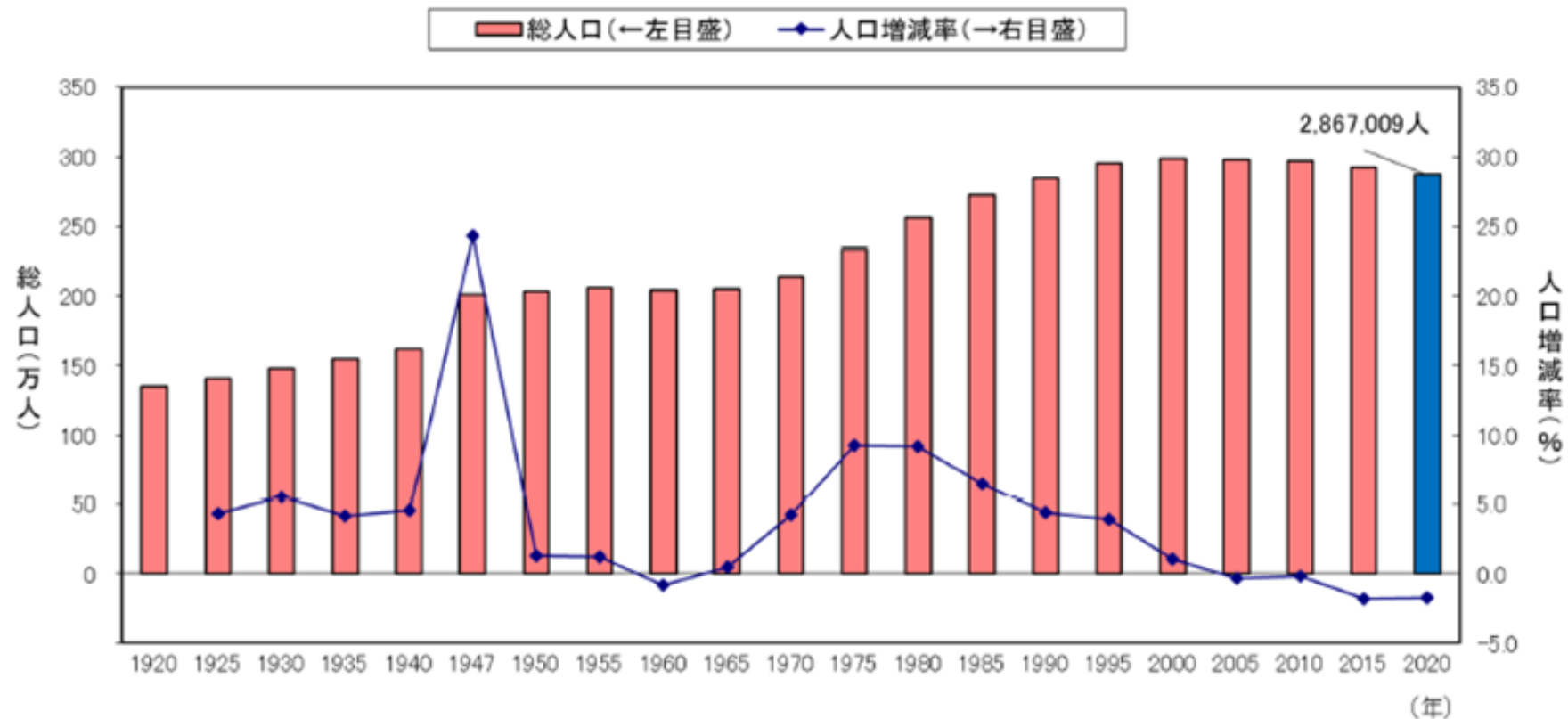
図3 都道府県別人口増減率（2010年～2015年，2015年～2020年）



①茨城県の人口は2,867,009人で、前回調査から49,967人の減。外国人は16,509人増。
茨城県5地域で、県南地域のみ人口が増加。

人口推移 【県】

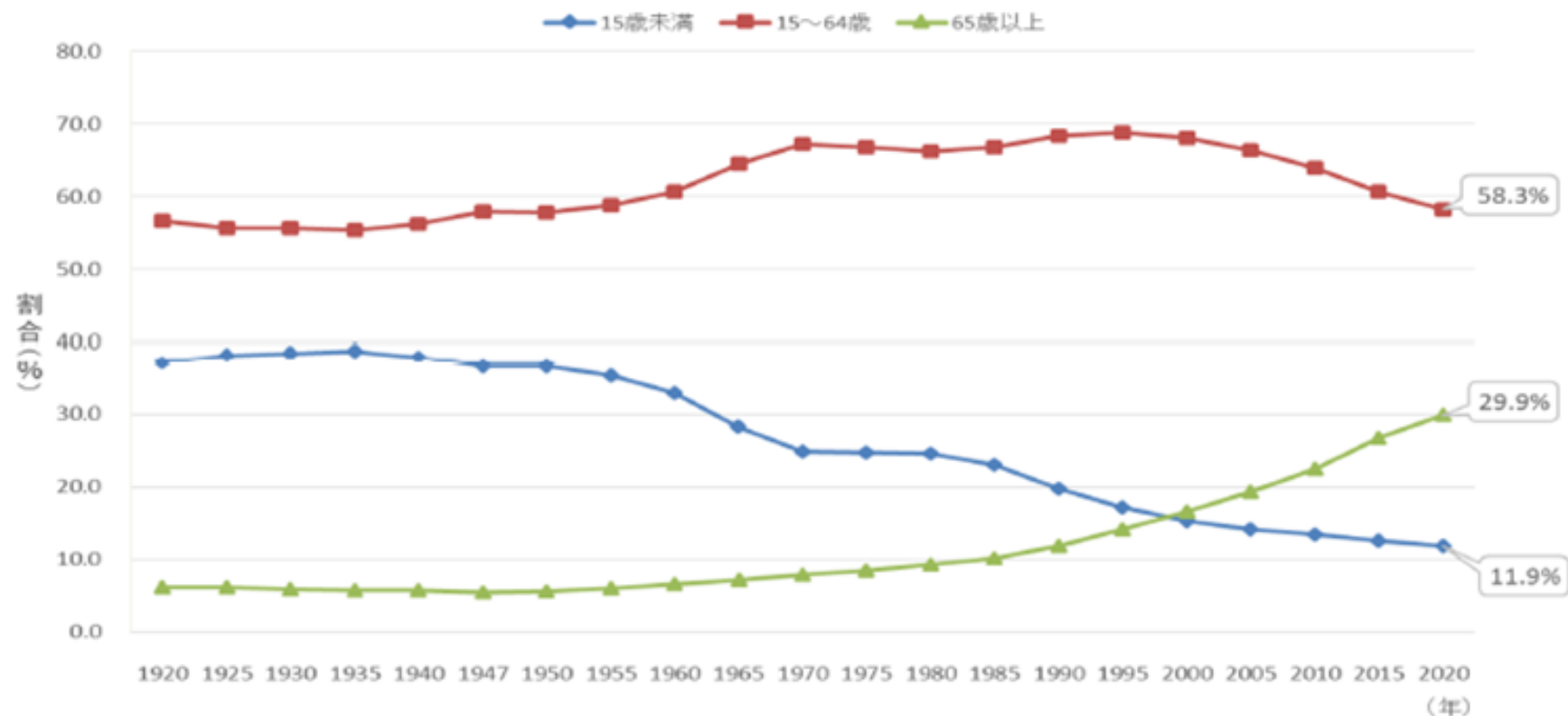
図1 県人口の推移（1920年（大正9年）から2020年（令和2年））



②総人口に占める65歳以上人口の割合は29.9%で、3.1%の増。15歳未満人口の割合は11.9%で、0.7%の減。
⇒人口減少と少子高齢化の傾向だが、国より進行が早い。

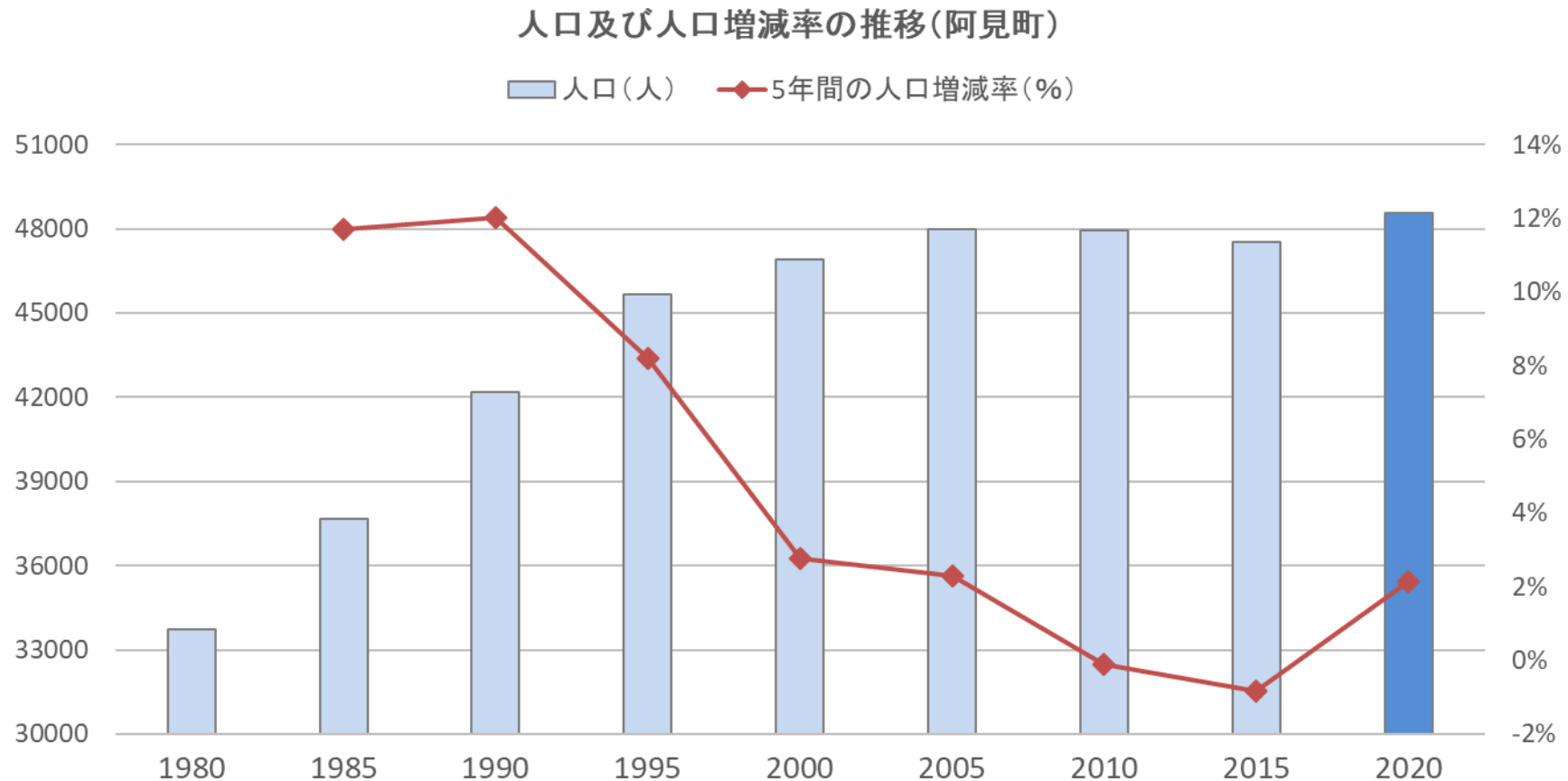
年齢区分 【県】

図4 年齢（3区分）別人口の割合の推移（1920年（大正9年）から2020年（令和2年））



阿見町の人口は前回調査から1,018人増えて、過去最高の48,553人となった。外国人人口も増えており、865人（45%増加）となった。

人口推移 【町】

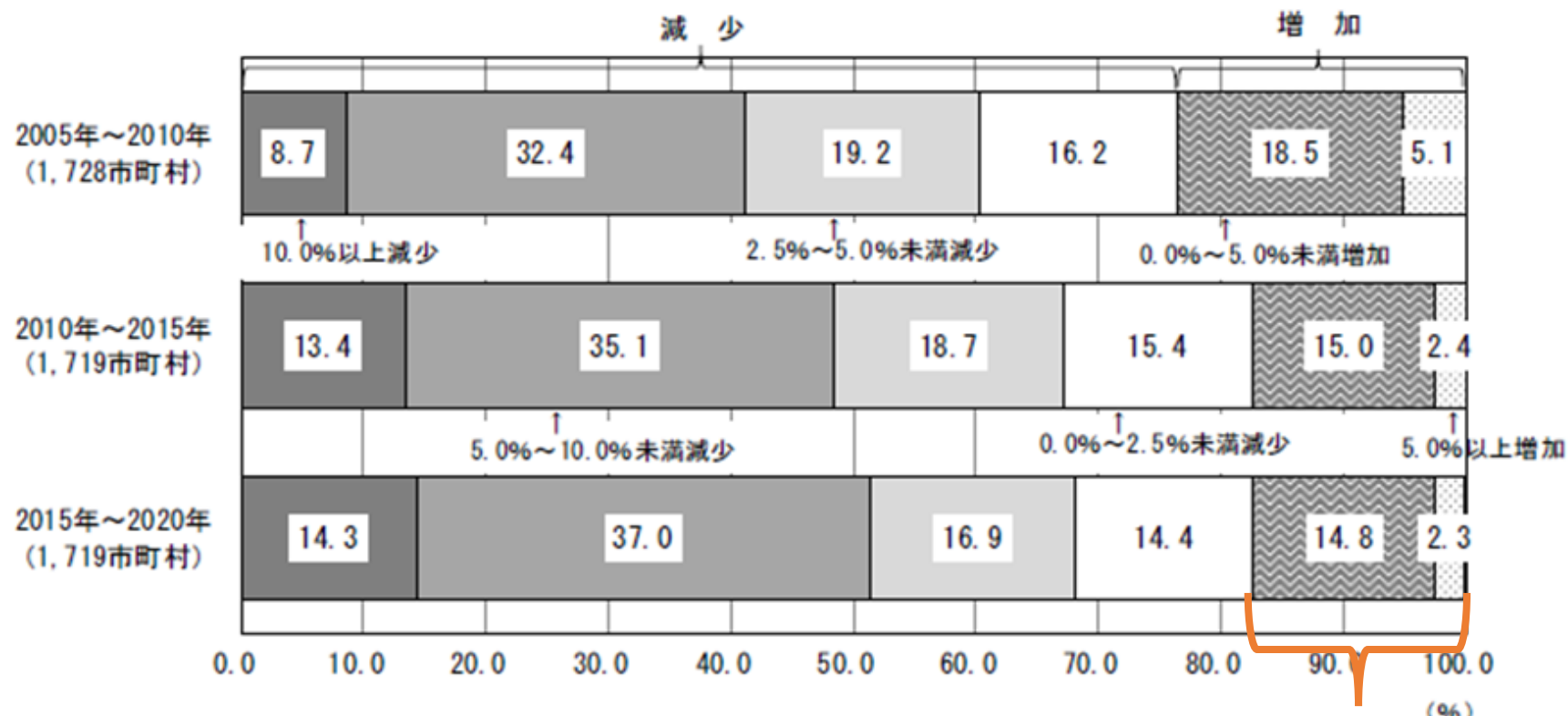


全国1,719市町村のうち、5年間で人口が増加したのは298市町村で約17%。

⇒ 阿見町は全国市区町村の上位約13%に位置する。

人口推移 比較【町】

図 I - 3 - 2 人口増減率階級別市町村数の割合（2005年～2020年）

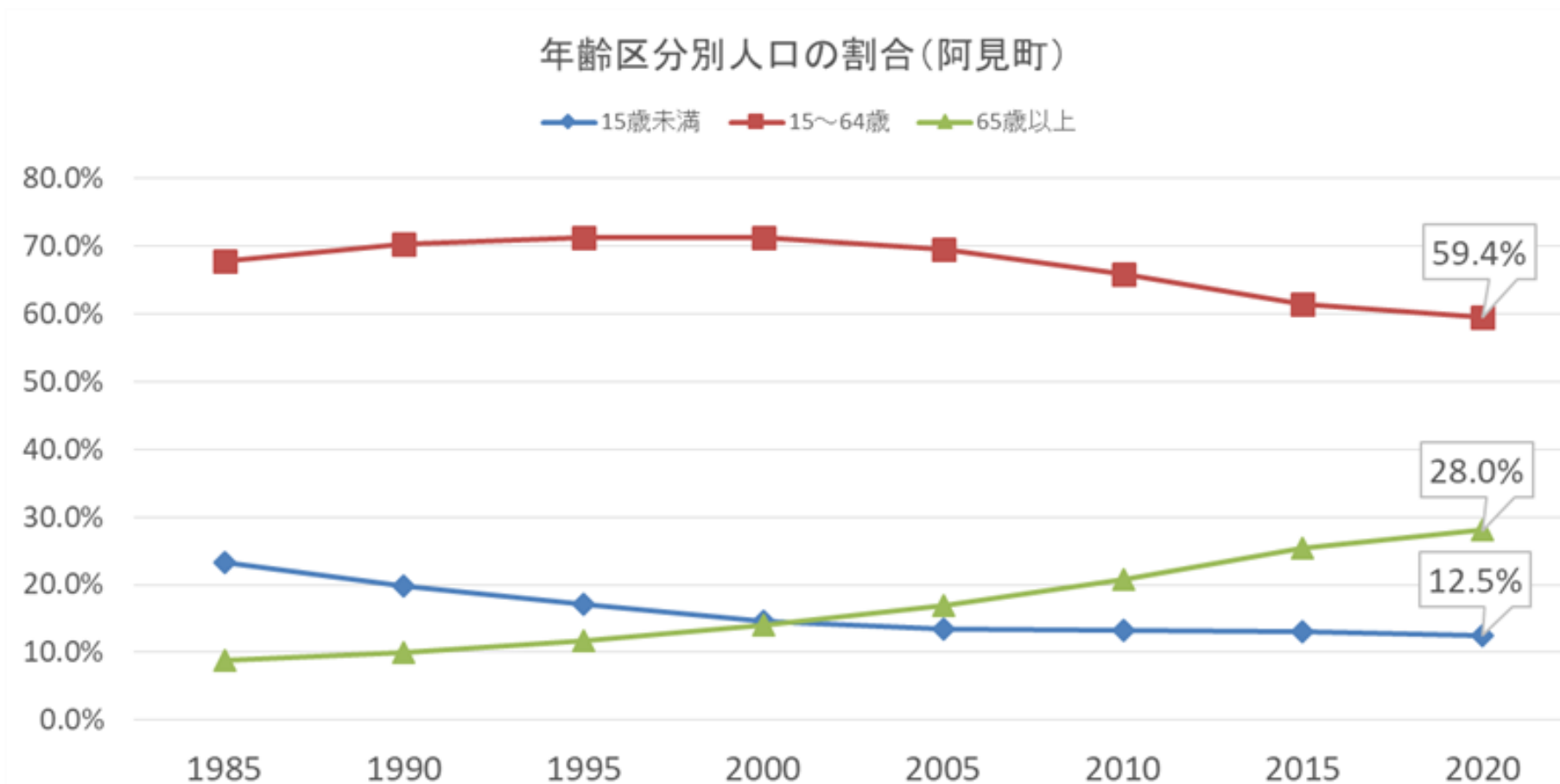


今回調査

人口が増加した市町村 約17%

町の人口に占める65歳以上人口の割合は28.0%で、2.6%の増。15歳未満人口の割合は12.5%となり、0.5%の減。
⇒ 少子高齢化の傾向だが、少子高齢化の進みは遅い。

年齢区分 【町】



まとめ

- 日本全体の人口減少と少子高齢化は刻々と進行している。
- 東京圏への一極集中の状況に変化はない。
- 都道府県、市区町村レベルでは、一部で人口増加の自治体も。
- 阿見町は人口が増加している一部の自治体に含まれ、日本の上
トレンドとは若干異なっている。